

ミスミグループ本社 2025 年度 第 1 四半期 決算説明会 (Zoom) 質疑応答 (抜粋)  
(2025 年 7 月 25 日 (金))

**<質疑応答>**

**【Fictiv】**

Q : 今回 Fictiv のシナジーや今後の計画について紹介いただいているが、新規参入者が現れた場合に、他社と競争領域が被る場合はどう競争していくか。

A : ミスミが最も得意とする寸法指定をした受注製作品 (MT0 品) を、他社が meviy や Fictiv のような、CAD データから加工する事業で実現するのには相当時間がかかる認識。

Q : Fictiv の見通しについて、CY25 売上高の伸びに対し赤字幅の縮小が小さいように見える。製品群/ビジネスモデルの確認として、限界利益に起因するのか。コスト面に起因するのか。

A : 基礎収益性は特に変化はない。Fictiv 社は自社生産ではなく協力工場で生産するファブレス型のため、粗利を変えていない。我々と同様に買収後の PMI では、一過性の出費等も若干含まれる。今般の収益性見通しについては、現時点で将来を楽観視するような見通しは入れていない。

Q : 決算説明会資料 P22 にある御社の今後目指す姿である EC プラットフォームについて、同 PF を成立させるために、どの程度の先行投資 (費用) が出てくるのか。現行 PF のシステムは転用可能か。シナジーとのつなぎをご教示いただきたい。

A : 本事業は既に構築してきた基盤を使いながら、足りないところを新しく構築していくという色彩が強い事業のため、大きな投資は想定していない。

また収益性については、従来からの取り組みがかなり生かせるため、従来からの収益性も大きく毀損する見立てはしていない。同時に、全社としては、複数の事業を立ち上げているため、各事業の黒字化見込みや収益改善状況に合わせて、トータルとして新規事業の取り組みによる出費が過度にならないようなマネジメントをしている。

Q : Fictiv 買収シナジーについて可能であれば定量的に、シナジー効果による売上高や利益への押し上げをどのくらい想定しているかをご教示いただきたい。イメージだけでも構わない。

A : 従前から Fictiv 社の描いてきた売上計画があり、それに対し協議した上で、PMI でしっかりと織り込んでいく。売上高はシナジー効果で 10%持ち上げる程度に盛り込んでいる。営業利益については、リーン化効果やクロスセルの効果からすると、元々 FY27 の黒字化と申し上げているが、FY26 年度中の実現を検討している。

### 【資本政策】

Q：資本政策について「エクイティスプレッド」とあるが、ROE、ROIC などの指標を用いた資本コストを如何に考えているのか。定量的にご教示いただきたい。

A：資本コストは、現在 9%前後としている。そのため、（エクイティスプレッドの拡大には）ROE をもっと上げていく必要がある。定量的な目標値については、今後もう少しクリアにしてい  
くが、さらに検討させていただければと存じる。

先般の Fictiv 買収は手元資金にて実施。現在利用しているコミットメントラインを、今後徐々に増やしていきながら、資本効率を一層向上させていく。

### 【中国動向】

Q：1Q 中国の堅調は E 品を中心に強いトップラインを確保した認識で相違ないのか。また、データセンター向け需要は昨年度から需要が半減する見立ての中、前倒しで現状 1Q2Q に入っているとの話だが、同需要環境はピークアウトなのか底堅いのかを確認したい。

A：中国のデータセンター向け需要は、1Q 前年並みの需要を獲得。ただし、その実態は（3Q 以降の）需要の前倒し発注によるものであり、年間では昨年度の半分相当という見通しの線は略不変。中国売上高は、前年比現通ベースで 12.2%の伸長だが、データセンター向け需要が昨年比ほぼ変わらない中で、FA 事業や一部の金型事業含め、量産需要を中心に堅調であったことにある。

### 【関税影響】

Q：1Q の米州について、関税問題等も出ているが、引き合いが引き続き堅調なのか。

A：米州については、基本線として医療や大手の電機、EV 等の需要が堅調。一方、関税交渉次第で、この先も投資需要の減退リスクがある。現在、関税等影響は期初想定よりも少なかった。そのため、見通しの関税影響は、期初よりも軽微であることを先行き一定織り込んでいる。また日本については、1Q は「低調」という言い方で表現している。日本ではやはり一定の関税影響があり、先行きの見通しも、それ（日本は関税影響有）を前提に、期初と同じロジックで、製造 GDP と我々の売上高に対する影響度合いを基に、見立てを算出している。なお、直近報道のあった「日米相互関税 15%」による影響、効果については、本見通しには含まれていない。

Q：関税の CU に対して、価格転嫁できそうなのか。顧客との交渉含め、期初計画対比で現在順調なのか。

A：1Q については、PU/CD/CU 項目で▲5 億円としている。これはほぼ米州の関税 CU 影響である。転嫁はタイムラグがあるが、1Q 以降に顧客反応を確認しつつ価格転嫁していくことが計画に織り込まれている。そのため、1Q では、（価格転嫁が）できていないように見えるが、上記組み立てであることをご理解いただければと存じる。

### 【収益性】

Q : 1Q の営業利益着地の社内計画に対する上振れ度合いをご教示いただきたい。また、通期計画の営業利益について、従来計画比で Fictiv 除外 44 億円の上振れだが、内どのくらいが今回の 1Q で既の実現できているのか。

A : 1Q の期初計画について、四半期計画は出していないため詳細は控えるが、売上高に対して、中・亜は当初公表より増収した一方、日本は下振れ。為替を除くと、売上高は計画比増加。為替も、期初想定より円安でプラスに出ていることから、為替含みで計画比増加の着地。営業利益については、為替除き且つ M&A 仲介費用を入れる前は、若干未達も、為替影響を含むと達成。当初計画になかった約 11 億円の仲介費用を含めると現在の着地となった。期初見直しからの通期計画改善後の 1Q 進捗だが、為替影響は、2Q 以降は 1 ドル＝139 円と若干保守的に見ている。為替影響については 18 億円のうち、半分相当は 1Q で出ている。関税影響についても、通期では 10 億円としているが、半分弱程度 1Q で出ている。この先は期初からの見直しと、保守的な観点がまだあるかもしれないが、期初からの関税影響や為替についてのロジックをあまり変えずに、現在の見立てとしている。

### 【その他】

Q : FY25 設備投資合計 180 億円の計画を出しているが、今後 3 年間について設備投資金額はどのくらいの見通しでいるのか。Fictiv 連結を含めた見直しをご教示いただきたい。

A : 設備投資額そのものは大きく上がることはない想定。IT 系の投資は基幹システムの刷新をしてきたこともあり、かなり大きかったが、同システム刷新は来年に終わるため、その分が軽減されるのに合わせて、追加の設備投資が出ても枠内に納まる認識。180 億円～200 億円程度を超えない水準でいけるのではないかと考える。

以上